

山行報告

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 佐々木

2024/11/15~21 タイ・ラオス Trekking・Rafting・メコン川下り

山行名	タイ (Chiang Mai・Chiang Rai Trekking Karen 族村) ラオス Mekong 川下り
日程	11/15~17 Chiang Mai trekking (Karen 族の村、象、筏乗り)
ルート	11/19 Chiang Rai Karen 族訪問 11/20~21 LAOS Mekong 川下り (1泊2日)
参加者	佐々木(CL) 木田(SL) 藤井 和田
<p>タイ北部には少数山岳民族が 100 万人以上も住み多様な文化、風習、言語をもっている。今回はタイの Chiang Mai、Chiang Rai を起点とする trekking とラオスでのメコン川下り。</p> <p>11/15 Chiang Mai 郊外で Trekking start。参加者は世界各地からの西洋人ばかり。私たちのグループはベルギー4、フランス 6、アルゼンチン 2、日本 4 の構成。ガイドは小柄なタイ人 David (63 才)、剽軽者で大声でしゃべり続け、懸命に笑いをとろうとする。</p> <p>最初は田んぼ沿いの道、続いて起伏の多い山道に入り、ランチは滝壺そばの河原。バナナの葉で包んだおにぎりやマンゴーが、疲れた体に最高のご馳走。喬木の繁るジャングルの山道、悪路だが難路というほどではない。水量豊かな滝が方々にある。西洋人達との会話も楽しい。</p> <p>“Where are you from?” と藤井さんが尋ねると “We are from ベルジヤム” との答え、どこかわからず戸惑った末、それが日本語ではベルギーであることが分かった時にはみんな大笑い、言葉とは面白いものだ。Karen 族の村落では鶏、子犬、子豚が走り回っている。</p> <p>宿は斜面に建つ掘立小屋、ドアもなく開放的なスペースが 8 つ。トタン囲いのトイレ、シャワーは桶から水を柄杓で汲み体にぶっかける。建物は高床式、木の枝の階段は危なっかしく、踏み外さないようにと命がけ。薪で準備された Dinner は食べ放題のカレーライス、デザートはとれ放題のスイカ。同行のアルゼンチンカップルはスペインでシェフとして働きもう 4 年、グローバルな人生。夜は満月を愛でながら fire storm を囲み、夜のしじまの中での談笑。</p> <p>11/16 Trekking 2nd Day 着の身着のままの寝起き。朝食後 walking を再開。山道を抜け河原に出ると象たちのお出迎え。草食の大食漢、サトウキビを鼻でわしづかみ、器用に口にもっていく。巨体は砂だらけ、川に入り柄杓で水をぶっかけてやると気持ちよさそう。再びジャングルウォーク、急坂を上り下りし、突如轟音をあげる大滝に遭遇。薪で準備された夕食、そして camp fire と悠久の時間が流れていく。</p> <p>Trekking 3rd Day 早朝眺める大自然は雄大、雲海が山々を覆い、大きなオレンジ色の太陽が山際から顔を出す。朝食を共にしたのは Sweden 人カップル、コンピュータで仕事をしながらもう 2 ヶ月も旅の空。故国はこの時期 dark & cold、気温 0℃と憂鬱な季節、東南アジアは楽園と至福の日々を送っている。walking の後はフィナーレの bamboo rafting。筏はよく沈み下半身はずぶ濡れ、岩を避けようとして千恵さんが筏から転落、水中に没してしまう。</p> <p>11/19 Chiang Rai 郊外にある山岳民族村へ。首長族 (long-neck tribe) はユニークな姿態、4kg もの真鍮を首にはめその重さで鎖骨が下がり首が伸びていく。</p> <p>11/20~21 ラオス入国、世界一忘れられた山国。slow boat で 2 日間のメコン下り。約 150 人乗りだが西洋人で満席。延々と連なる山々、川は奇岩の連続、大自然が心を癒す。</p> <p>数えきれないほどのハプニングがあった。企画担当の木田さん、ポジティブ思考の藤井さん、交渉上手な和田さん、感謝しきりの海外山行・放浪を満喫しました。</p>	
ヒヤリハット：なし	

感想文

藤井

タイ・チェンマイでのトレッキングに参加する。まるでジャングルの中を進む。幸いガイドがついているので、道に迷う心配はない。がしかし、虎や象などの出没を大いに心配する。途中、小さな川の小石を踏みながら渡る。滑らないか大いに心配する。大きな滝に幾度となく遭遇。中には水浴びする猛者もいるが、私はそんなに気にはなれない。ただひたすらガイドの後をついていくだけだ。途中、2泊したが、どちらも電気はなく、水は近くの川から引いている、炊事は薪で行っている。不便だが大して苦にもならない。ガイドが素晴らしかった。カレン族の18歳の少年だった。よろよろとついていく私を、手を差し伸べて助けてくれる。まるで介護状態。何とも情けない。足腰の鍛錬をつづけないとね。痛感した。

新人・初心者・高齢者の藤井でした。

和田

海外山行の超ベテランCLに付いて、ツーリストでのトレッキングツアー交渉から始まった3日間のタイ・ラオスの山行は、愉快で楽しく今年最後の素晴らしい思い出になりました。

滝を見ながらの休憩場所から突然急な山道に入り、いつもの呼吸が上がったり、真っ暗な闇の中での燃えるキャンプファイヤーや星空、蚊帳だけの掘立小屋に泊り、犬や猫が後に続いて同行したり、象と戯れ、竹を繋いだいかだ下りで水没したりのハプニング多彩な自然豊かな山々を堪能しました。



バナナの花

